

イスラエルのための祈り レブ・アミツツ作戦

26年2月16日恵比寿マンデー



レブ・アミツツ作戦 (勇敢な心 作戦)

ミルトス代表 谷内意咲 たにうち いさく氏による解説

亡くなっていてもガザ地区の人質を全員帰還させる決意の背景

最後の一人となったラン・グビリさん：負傷していて休暇中にも関わらず 警察官として、人命救助に駆けつけ、最期まで戦い抜いた英雄。

そのランさんに敬意を込めて「レブ・アミツツ」作戦と命名された。

過酷な作戦

司令官ヴェルマン中佐の証言

- * 逮捕したテロリストを尋問し、ガザ地区のどの墓地か特定されたが、250人以上のご遺体が あった。
- * 重機が使えず、一晩中 自分たちの手で土を掘り返し、250人のご遺体を一人ずつ確認。
- * 疲弊する隊員たちを 中佐が鼓舞「見つけるまでは、帰らない。」



IDFザミール参謀総長もガザでのセレモニーに参列

とらわれた人々の贖い：ユダヤ教の教え

「ピドウヨン・シュブイーム」

* 他民族に囚われた同胞を取り戻すためには、どれだけ大きな代償を払っても最大限の努力をするべきとする戒律。国民同士が政治的に対立する中でも、「たとえ遺体であっても最後の人質が帰ってくるまで 決して諦めない」という国民の固い意志は、この2年半で揺らいだことはない。

* 困難な歴史の中で 育まれたユダヤ人のメンタリティ。ナチスによるホロコーストをはじめ、死んでも弔われることも、墓さえないユダヤ人が 多数存在。

不思議な出来事 司令官ヴェルマン中佐の証言

- * 作戦二日目の午後一時 午後の祈りの時刻、祈ろうとしていたところ、どこからか従軍ラビが来て、「祈りを導く」
- * ラビ「宣言する。あなたがたは、三時間以内に彼を発見する。」
- * 「この状況で 無理」と応答した司令官にラビは「発見後、あなたがたは私を祝福することになるから、私は しばらく ここにいる。」
- * ユダヤ教のこの週の聖書箇所が、ヨセフの遺骸の箇所。ラビと語り合った。
(モーセはヨセフの遺骸を携えていた。それはヨセフが、「神は必ずあなたがたを顧みて下さる。その時、あなたがたは私の遺骸をここから携え上らなければならない」と言って、イスラエルの子らに固く誓わせていたからである。)(出エジプト記13章19節)
- * 午後2:13 ご遺体発見。午後2:40 医師による確認完了。

お祈りの課題

- * 神様が イスラエルの子らを顧みて、ランさんのご遺体を埋葬できるよう、帰還させてください、感謝します。
- * 悲惨で苦しい状況の中にはあって、みことばを通して 神様がイスラエルの人々に語り掛けておられることが 分かりました。ヨセフの遺骸の帰還の聖書箇所の週に ランさんのご遺体が 奪還されたことに 心を留めます。このような体験を通して、多くのイスラエルの人々の靈的目が開かれますように。